

第四十九話 嗚呼、玉砕！為す術なきぞ悲しき！されど、熱烈たる殉国の魂

大東亜戦争を端的に象徴する語彙の一つは間違いなく「玉砕」である。玉砕は、「玉のように美しく砕け散ること、大義、名誉などに殉じて死ぬこと」とされ、その対義語は、瓦全（がぜん）、甄全（せんぜん）である。出典は、唐代に編纂された「北齊書」の列伝三十三（元景安）であるとされる。一方、西郷隆盛の七言絶句「偶成」だとする説もある。その西郷の詩は次の如し

・幾曆辛酸志始堅　・丈夫玉碎恥甄全　・我家遺法人知否　・不為児孫買美田



大東亜戦争間の玉砕は、1944(S19)年9月の拉孟・騰越守備隊の玉砕を除けば、中部太平洋の島嶼におけるものである。上級司令部としても絶海の孤島で孤軍奮闘する我が部隊を救援・救出すべくあらゆる選択肢を検討するも、如何せん圧倒的な制空・海権下においては為す術なかったのが実情であり、初めから玉砕を命じ捨て石にした訳ではない。佐藤和正著「玉砕の島」（光文社NF文庫）には、11の玉砕が記述してある。

兵員数は日本軍守備隊兵力(概数)

- ①タナンボゴ島（ガダルカナル島沖） 昭和17年8月7日 約600名
南の孤島に散った横浜航空隊
- ②アツ島（アリューシャン列島） 昭和18年5月12日 約2600名
嵐と霧と雪の中の死闘 注：「玉砕」と大本営が初めて発表
- ③マキン島（ギルバート諸島） 昭和18年11月21日 約690名
死してなお勝利を収めた
- ④タラワ島（ギルバート諸島） 昭和18年11月21日 約4600名
米軍が味わった珊瑚礁の恐怖
- ⑤クエゼリン島（マーシャル諸島） 昭和19年1月30日 約8100名
ロケット弾に野望砕かる！
- ⑥エンチャビ島（ブラウン環礁） 昭和19年2月19日 約1300名
ブラウン環礁に死の空爆
- ⑦ロスネグロス島（アドミラルティ諸島） 昭和19年2月29日 約3800名
アドミラルティに迎え撃つ精強部隊
- ⑧サイパン島（マリアナ諸島） 昭和19年6月15日 約44000名（第四十六話関連）
戦車第九連隊、海を渡る
- ⑨テニアン島（マリアナ諸島） 昭和19年7月24日 約8100名
真夜中の逆襲部隊
- ⑩ペリリュー島（パラオ諸島） 昭和19年9月15日 約10500名（第三十七話関連）
海中伝令、死の海六十キロを渡る
- ⑪硫黄島（小笠原諸島） 昭和20年2月19日 約20900名（第四十六話関連）
黒砂に刻まれた戦士たちの命
- 同書によれば他に、「ブーゲンビル島でのタロキナの玉砕」「ソロモンのバングヌ島」「マリアナのグアム島」「パラオのアンガウル島」「東部ニューギニアの玉砕」等がある由。
- 拉孟・騰越守備隊の玉砕 中国雲南省とビルマ国境（第四十七話関連）
拉孟守備隊 昭和19年9月5日 約1300名
騰越守備隊 昭和19年9月12日 約2800名
進軍限界を超えて絶海の孤島まで進出せねばならなかったのか？広範囲の分散配置の弊？救出の困難性は把握していた？玉砕した英霊は何を我等に語り掛けるのか？未だ帰還できぬ御柱を如何する？

(第四十九話 了)